

アーカイブ室新聞 (2011年4月5日 第454号)

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 写真乾板整理－(中桐：2011年4月5日分)－

図書室から渡された段ボール箱に手札の写真乾板の箱が10個あった。たぶん堂平観測所関係のものだと思うが、筆者に渡った写真乾板は片っ端からスキャナーで取り込んでおくことにしている。まずは手始めに一番手前にあった箱(写真1)を取り上げた。



写真1 ORIENTAL SS HYPER PAN と書かれた箱

ORIENTAL SS HYPER PAN と書かれた箱の上には、36”用 1957 X II-18 と書かれているのみで撮影場所等の情報はない。箱を開くと4枚の乾板(写真2)が入っていた。



写真2 入っていた4枚の乾板

2枚はハルトマンテストの乾板で、2枚は Ikeya 彗星が撮影されていた。読者は鏡面精度の検査のハルトマンテストというものをご存じないであろうが、望遠鏡の性能試験として最初に行う主鏡の面精度検査である。ここではハルトマンテストは望遠鏡の筒先に放射状の位置に穴をあけたハルトマン板を取り付け、焦点の内側と外側でその穴を通過する主鏡による天体の像を撮影し、光線追跡をして面精度を測定する。

入っていた乾板の番号は、

- 1) V.4 ⑥ 昭和37年12月6日 オーダー16AB7
- 2) V.10 ⑤ 昭和37年12月6日 オーダー16AB7
- 3) LP38 彗星 Ikeya 1963a Exp.10
- 4) LP53 彗星 Ikeya

である。

写真3がハルトマンテストの乾板とその袋の写真である。

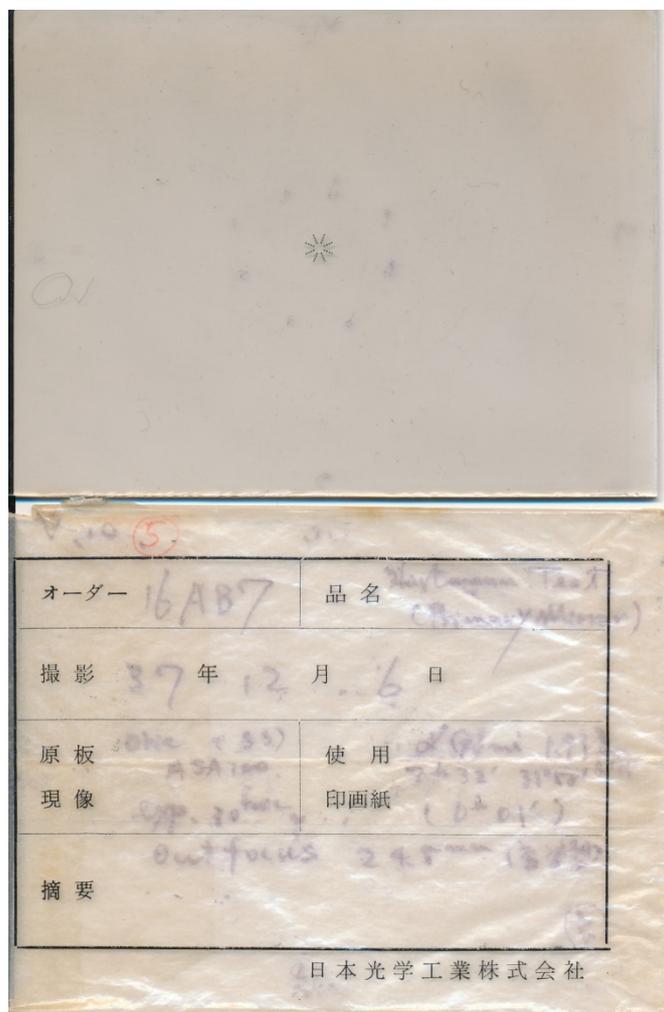


写真3 乾板とその袋

写真4がハルトマン像の拡大写真である。



写真4

これらの2枚のハルトマンテストの乾板は日本光学の手でテストが行われた際のもののようだ。袋の拡大写真が写真5であるが、非常に読みにくい日本光学が主体であったことが分かる。

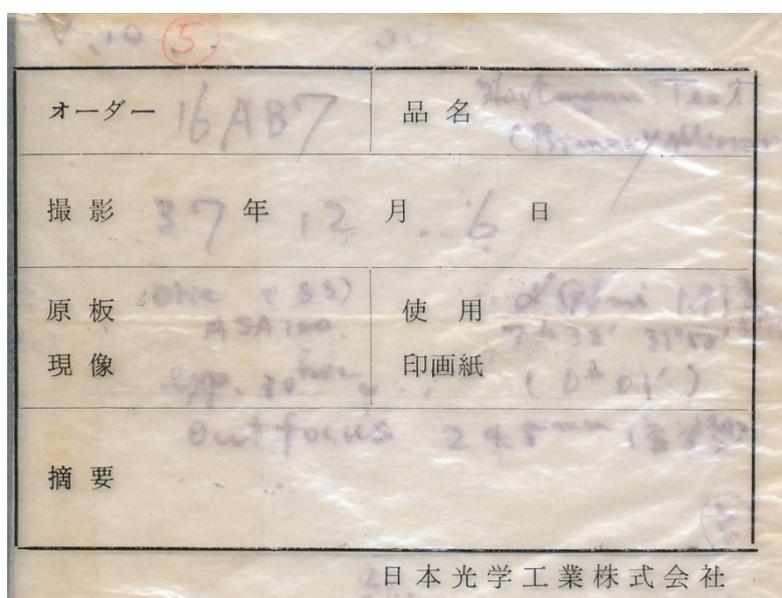


写真5 乾板の袋に書かれた情報

撮影日が昭和37年12月6日とあることから、おそらく堂平観測所で日本光学が撮影したものであろう。写真6が読み込んだ4枚の乾板である。



写真6 読み込んだ4枚の乾板

次の乾板は、Ikeya 彗星（写真6）の写真である。

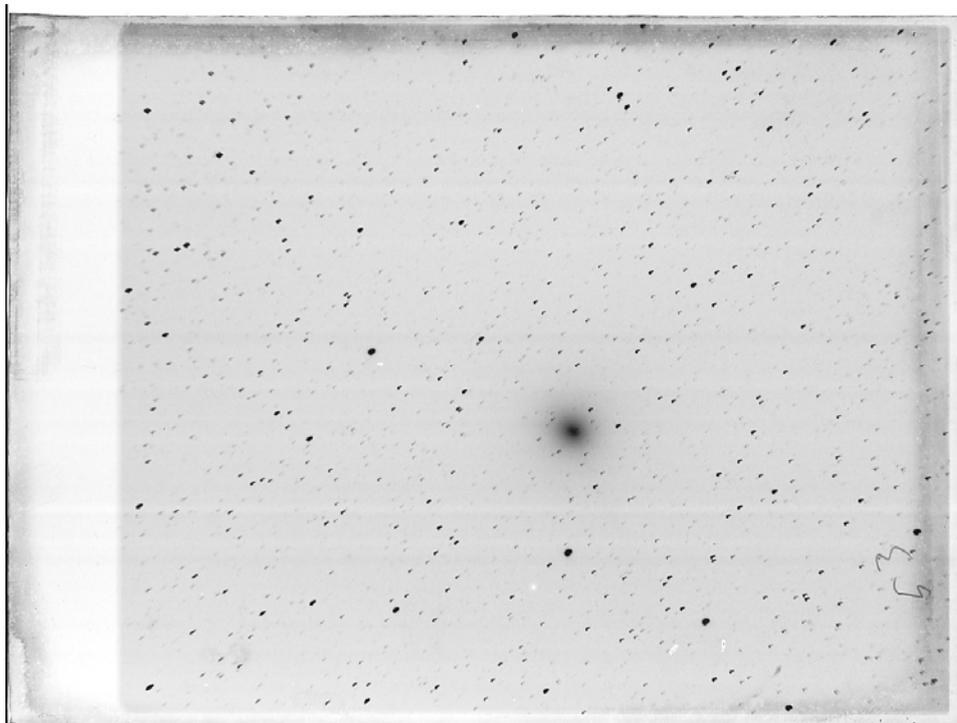


写真6 Ikeya 彗星の写真

写真6は、その乾板のカバーであるトレーシングペーパーに書かれた情報である。

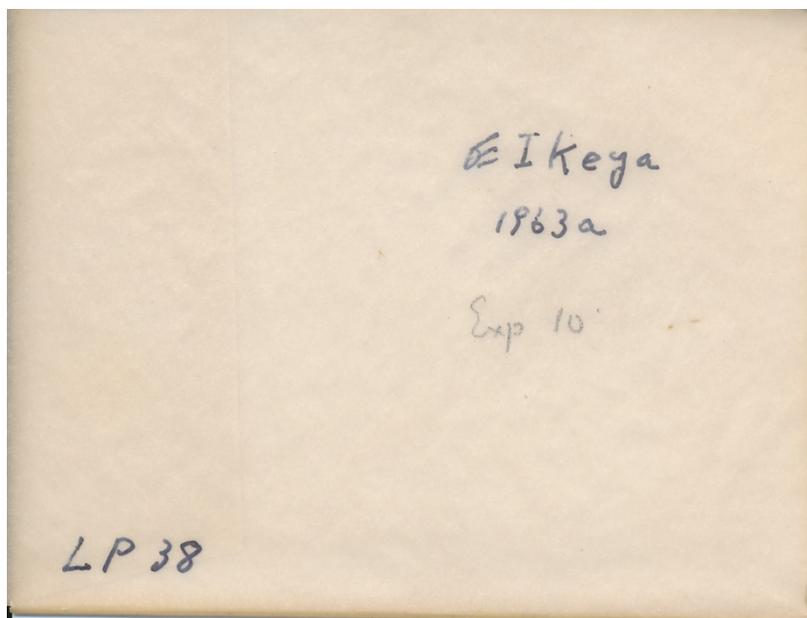


写真6 LP38 という No の乾板の袋

これから、続いて9箱分をデジタルデータとして取り込む予定である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp